

第二章 定義

第二條 術語

本示方書に於ける用語の定義は次の如し。

責任技術者——工事に責任を有する主任技術者を云ふ。

ポルトランド・セメント——昭和五年八月商工省告示第四十一號第一條に依り製造したるものと云ふ。

高爐セメント——昭和五年八月商工省告示第四十二號第一條に依り製造したるものと云ふ。

セメント——ポルトランド・セメント又は高爐セメントを云ふ。

骨材——砂、砂利、碎石其の他之に類似の材料にして、セメント及水と混合してモルタル又はコンクリートを造るものを云ふ。

細骨材——『骨材篩分け試験に關する標準方法』(附錄第一章)に規定する第四番篩を通過する骨材を云ふ。

粗骨材——『骨材篩分け試験に關する標準方法』(附錄第一章)に規定する第四番篩に殘留する骨材を云ふ。

モルタル——セメント及細骨材に水を加へ混合して生ずるものを云ふ。

コンクリート——セメント、細骨材及粗骨材に水を加へ、混合して生ずるものを云ふ。

レイタンス——モルタル又はコンクリートを施工したる際水分過多のため、其の上面に生じたる微細なる物質より成る表皮を云ふ。

ウォーカビリチー——コンクリートの流動性に依る施工容易の程度を云ふ。

鐵筋コンクリート——鋼材を以て補強したるコンクリートにして、外力に對し兩者が一體として作用するものを云ふ。鐵筋コンクリートに使用する鋼材を鐵筋と稱す。

正鐵筋——版又は桁に於て正彎曲率より生ずる張應力を受くる様配置されたる鐵筋を云ふ。

負鐵筋——版又は桁に於て負彎曲率より生ずる張應力を受くる様配置されたる鐵筋を云ふ。

主鐵筋——主鐵筋とは設計荷重に依り直應力を受くる鐵筋を云ふ。

橫鐵筋——主鐵筋の位置を確保し、且つ外力及内力を平等に傳播するため主鐵筋と普通直角の方向に配置せる補助の鐵筋を云ふ。

軸鐵筋——抗壓材の軸の方向に配置せる主鐵筋を云ふ。

斜張応力鋼筋——斜張応力を受くる主鋼筋を云ふ。

腹鋼筋——版又は桁の斜張応力鋼筋を云ふ。

肋筋——主鋼筋に對し直角又は直角に近き角度をなす腹鋼筋を云ふ。

曲鋼筋——主鋼筋を曲上げ又は曲下げたる腹鋼筋を云ふ。

帶鋼筋——軸鋼筋を所定の間隔毎に繋結する横方向の補助の鋼筋を云ふ。

螺旋鋼筋——軸鋼筋を螺旋状又は環状に繋結する主鋼筋を云ふ。

組立鋼筋——コンクリートの填充に際し、鋼筋の位置を確保する目的を以て挿入する補助の鋼筋を云ふ。

用心鋼筋——コンクリートの硬化、温度の變化等に依る膨脹、收縮及び振動等に依りて生ずるコンクリートの亀裂を防止する目的を以て挿入する補助の鋼筋を云ふ。

短柱及長柱——支柱又は抗壓材にしてその纖弱率が 45 以下のものを短柱、以上のものを長柱と稱す(第九十四條参照)。

第三條 記 號

本示方書に於て計算に使用する記号は次の如し。

記 号	記 号 の 説 明
α	曲鋼筋と抗張主鋼筋との間の角
A	柱等に於けるコンクリート有效断面積(軸鋼筋断面積を減ぜず)
A'	支壓力の作用する面積(支承面積)
A_a	螺旋筋の容積を軸鋼筋に換算したる場合その軸鋼筋の断面積にして換算断面積と稱す
A_t	鋼筋コンクリート柱の等值断面積
A_0	柱の全断面積
A_s	鋼筋の断面積
$A_{s'}$	弯曲率又は彎曲率と輻力を受ける断面に於ける抗壓鋼筋の断面積
A_b	桁の軸方向に測りたる距離 v の間に於ける曲鋼筋の全断面積
A_o	桁の軸方向に測りたる距離 v の間に於ける肋筋の全断面積
b	矩形断面の幅、又は T 形断面突縁の幅
b_1	T 形断面腹部の幅
C	コンクリートに於ける全壓應力
C'	抗壓鋼筋の全壓應力
d	版及桁に於て抗壓側表面より抗張鋼筋断面の重心までの距離(版及桁の有效高さ)
d'	版及桁に於て抗壓側表面より抗壓鋼筋断面の重心までの距離
d	鋼筋の直徑
D	螺旋筋柱のコンクリート有效断面の直徑(螺旋筋の中心線間の距離)
E_c	コンクリートの弾性係数
E_s	鋼筋の弾性係数
f	螺旋筋一本の断面積

h	柱の高さ即ち柱の横に支持せられる高さ
h	矩形断面又は T 形断面の全部の高さ
i	断面の最小環動半径
I	断面二次率
j	抵抗偶力の臂長さの有效高さ d に対する比
$jd = z$	抵抗偶力の臂長さ
k	抗壓側表面より中立軸までの高さの有效高さ d に対する比
$kd = x$	抗壓側表面より中立軸までの高さ
l	桁又は版の支間
M	弯曲率
n	鋼の弹性係数のコンクリートの弹性係数に対する比
p	筋筋断面積のコンクリート断面積に対する比
P	短柱の安全軸荷重
N	軸力
P'	長柱の安全軸荷重
s	筋筋の間隔又は曲筋筋の間隔
σ_c	コンクリートに於ける压应力
σ_{ca}	コンクリートに於ける許容压应力
σ_s	筋筋の应力
σ_{sa}	筋筋の許容应力
σ_{28}	材齢 28 日のコンクリート標準試験體の抗压强度
S	剪力
t	版の厚さ, T 桁突縁の厚さ
t	螺旋筋のヒッチ
τ	コンクリートの剪应力
τ_a	コンクリートの許容剪应力
τ_0	筋筋とコンクリートとの附着应力
τ_{0a}	筋筋とコンクリートとの許容附着应力
T	抗張主筋筋の全張应力
U	筋筋の周長の總和
w	版又は桁の単位面積又は単位長さ當りの全等布荷重
wa	単位面積當りの等布死荷重
wi	単位面積當りの等布活荷重
$x = kd$	版及桁に於て抗壓側表面より中立軸までの高さ
y	中立軸より应力を求むる點までの高さ
$z = jd$	抵抗偶力の臂長さ